



平成26年4月24日

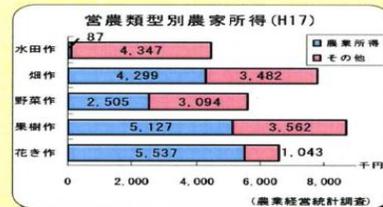
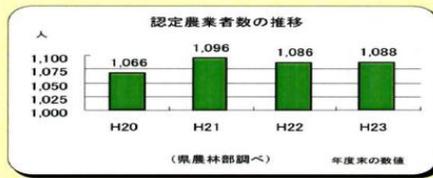
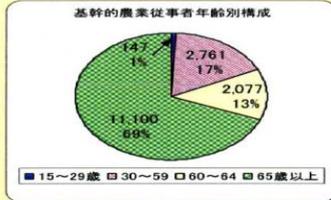
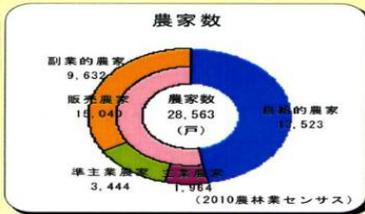
1. 奈良県農業の概要

1 本県農業の現状と課題

(1) 担い手

現状

- 総農家戸数は28,563戸で、うち52.7%(15,040戸)が販売農家、販売農家のうち主業農家の占める割合は、13.1%(1,964戸)である。
- 販売農家の世帯員数が61,791人、その内農業就業人口が20,757人、基幹的農業従事者(ふだんの仕事が農業である者)が16,085人で、その69%が65歳以上である。
- 認定農業者は1,088経営体(H24.3末)と、全国47位。部門別では、野菜、果樹、花き、茶の順である。
- 営農類型別農家所得では、水田作で農業所得の割合が低いのに比べ、果樹・花き作では高い。



〈用語解説〉

- 販売農家: 経営耕地面積30a以上または農産物販売金額が年間50万円以上の農家
- 主業農家: 農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、1年間に60日以上農業に従事している65歳未満の者がいる農家
- 自給的農家: 経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が年間50万円未満の農家
- 基幹的農業従事者: 自営農業に主として従事した世帯員(農業就業人口)のうち、ふだんの主な状態が「主に仕事(農業)」である者
- 認定農業者: 自ら農業経営改善計画を作成・申請し、基準に適合する農業者として、市町村から認定を受けた者

担い手に関する全国と奈良県の比較

	奈良県	全国	構成比率	順位	備考
総農家数(戸)	28,563	2,527,948	1.1%	40	H22
販売農家数(戸)	15,040	1,631,206	0.9%	44	H22
主業農家数(戸)	1,964	359,720	0.5%	42	H22
販売農家世帯員数(人)	61,791	6,503,219	1.0%	44	H22
農業就業人口(人)	20,758	2,605,736	0.8%	45	H22
基幹的農業従事者数(人)	16,085	2,051,437	0.8%	42	H22

課題

意欲ある農業の担い手を確保するため、認定農業者等の意欲ある担い手の育成に力を入れるとともに、農外からの新規参入(企業も含)を推進する必要がある。

2. 奈良県農地の概要

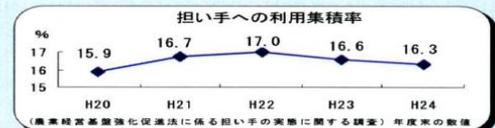
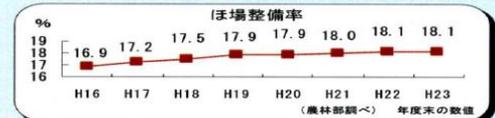
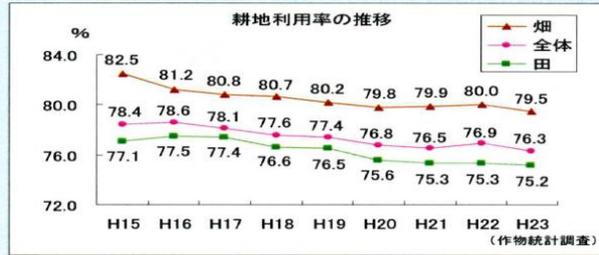
(2) 農地

現状

- 本県は、山林が多いため可住地面積は851km²と、全国一小さく、県土面積3,691km²の約23%である。
- 本県の耕地面積は、県土の6.1%にあたる22,400haで、その内訳は田16,100ha、畑6,340haである。ここ5年間では、転用や耕作放棄等が原因で田600ha、畑110haが減少している。
- 本県の耕作放棄地面積は3,595ha(H22)、耕作放棄地率は19.0%で近畿府県において最も高い割合である。
- ほ場整備率(ほ場整備事業によって区画整理された水田面積の割合)はH14からH20の6年間で1.9%の伸びでとどまっており、農業の担い手への農地の利用集積率についてはわずかながら増加傾向にある。

土地利用の状況

項目	奈良県	全国順位	全国平均
可住地面積	851km ²	47位	2,582km ²
都市計画区域面積	115,859ha	33位	212,393ha
市街化区域面積割合	18.1%	40位	27.8%
工業系用途地域面積	11.2%	47位	24.4%
耕地面積(H23)	224km ²	44位	970km ²



課題

可住地面積が851km²と全国一小さい中で、農地を有効に利用するため、地域の振興と農業とのバランスを図りながら、経済活性化につながる農地の有効利用を推進する必要がある。